



証券コード：7963

2020年12月期 第2四半期決算説明資料

「世の中にない」「真に役立つ」
それが、私たちの研究開発の出発点です。

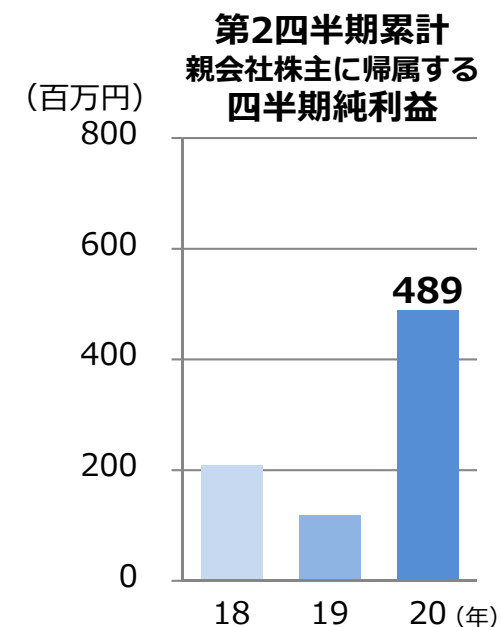
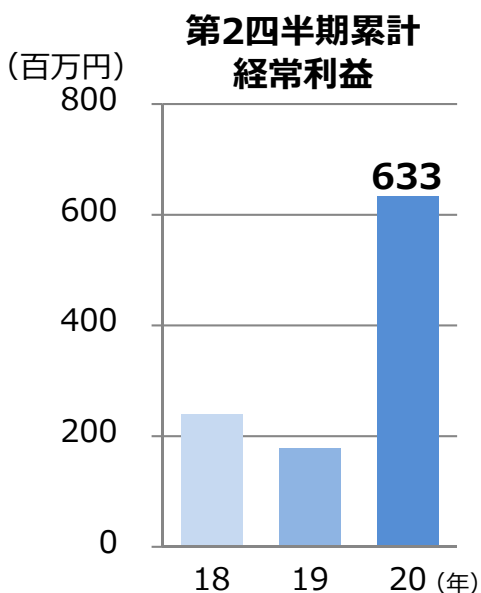
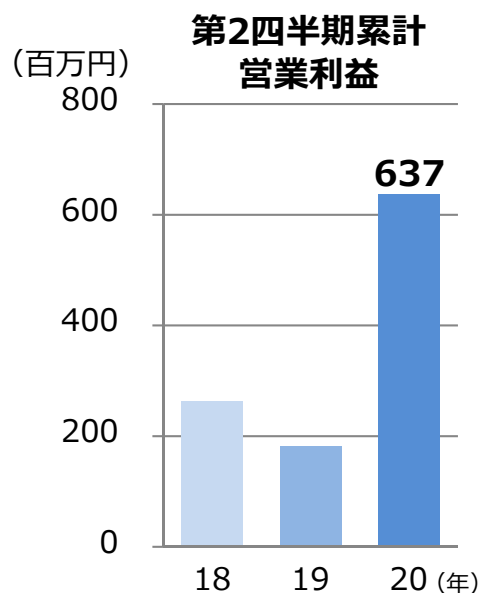
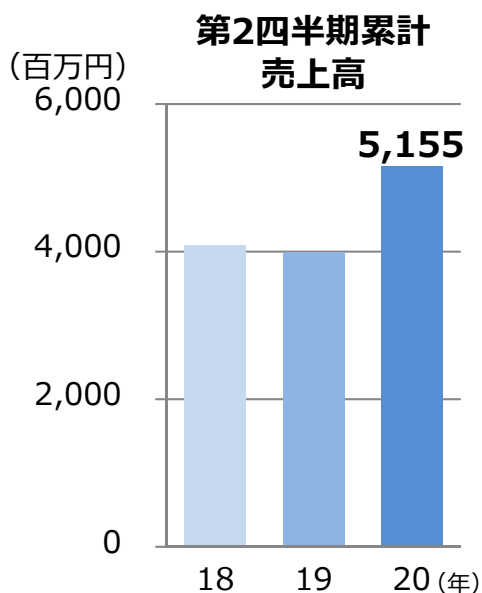
クリーン、ヘルス、セーフティで社会に

 **興研株式会社**

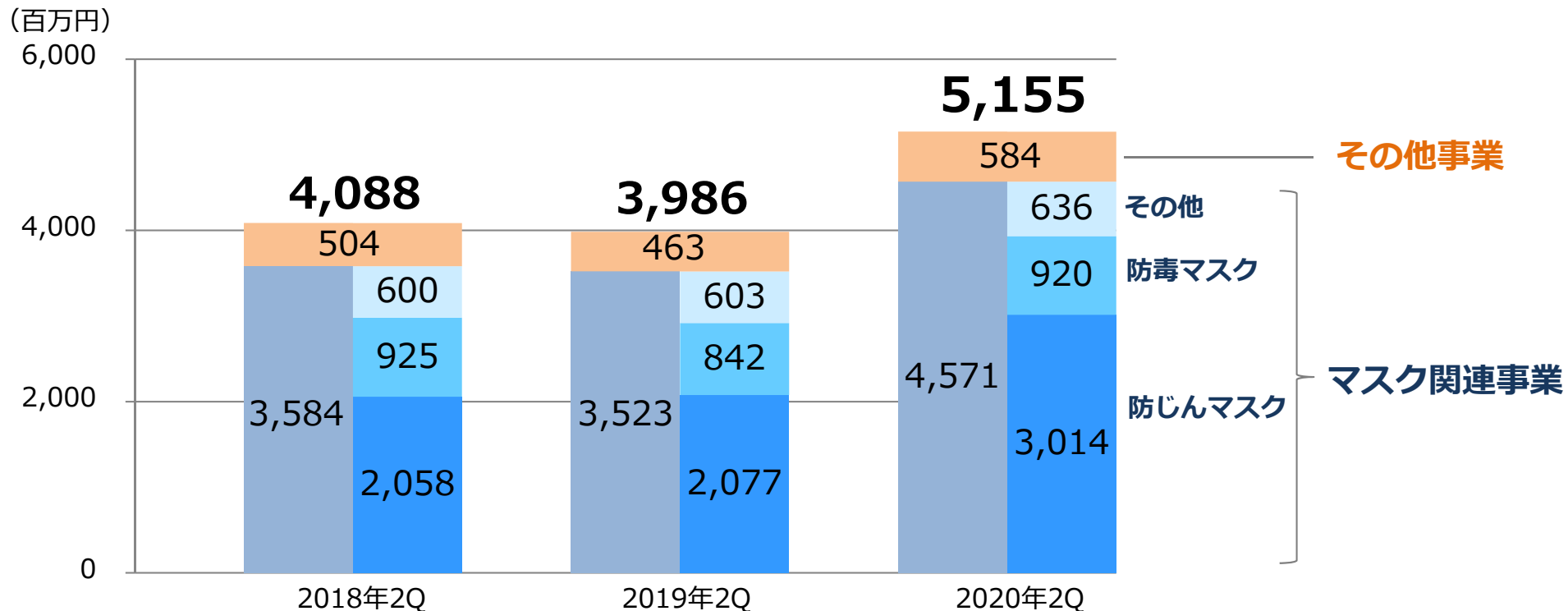
○前年同四半期実績に対し増収増益を達成（過去最高売上高・利益）

（単位：百万円）

	2019年12月期 第2四半期		2020年12月期 第2四半期		前年同期比	
	実績	売上高比	実績	売上高比	増減額	増減率
売上高	3,986	100.0%	5,155	100.0%	+1,168	+29.3%
売上原価	2,072	52.0%	2,628	51.0%	+555	+26.8%
売上総利益	1,914	48.0%	2,527	49.0%	+613	+32.0%
販売費・一般管理費	1,732	43.5%	1,889	36.6%	+157	+9.1%
営業利益	181	4.6%	637	12.4%	+455	+250.8%
経常利益	178	4.5%	633	12.3%	+454	+254.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	118	3.0%	489	9.5%	+370	+311.8%



連結セグメント別の業績



マスク 関連 事業	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染症拡大により、保健所、感染症指定医療機関での需要急増、感染症指定医療機関外での患者受入れ、外国製マスクの輸入停止等により、感染症対策用N95マスクの不足が深刻化 当社グループは医療機関を守るため、米国NIOSH規格N95、国家検定規格DS2に合格している使い捨て式防じんマスク「ハイラック350型」の緊急増産及び緊急性の高い機関への分割出荷の体制をとり、マスクメーカーとして医療崩壊防止に尽力しました。 産業用の防じんマスク、防毒マスク、電動ファン付き呼吸用保護具等の需要については、目立った落ち込みは見られず堅調に推移しました。
その他 事業	<ul style="list-style-type: none"> オープンクリーンシステム「KOACH」については、営業活動の機会損失は避けられず、販売件数は前年同四半期の2割減となりましたが、導入内定案件を確実に受注に結び付けたこと及び大型機種「フロアーコーチ」の納入が続いたことから、販売台数は昨年並みを確保し、売上高は1割増の成果が得られました。 自動ブラッシング機能付き内視鏡洗浄消毒装置「鏡内侍ⅡG」については、同様に病院への訪問営業は自粛せざるを得ませんでした。既存顧客の更新需要とクリニックを中心とした新規需要の掘り起こしを行い、売上を伸ばしました。

連結財務の状況（要約貸借対照表）

（単位：百万円）

	2019年 12月期		2020年 12月期	対前期末 差異	主な増減要因
	第2四半期末	通期末	第2四半期末		
資産の部					
流動資産	6,063	6,381	6,995	+613	現金及び現金の増加：+317 電子記録債権の増加：+307
固定資産	12,161	11,956	11,961	+4	建設仮勘定の増加：+139 建物及び構造物の減少：△87
資産合計	18,224	18,338	18,956	+618	
負債の部					
流動負債	4,259	4,520	4,204	△315	1年内返済予定の長期借入金の減少：△555 買掛金の増加：+117
固定負債	4,442	4,021	4,632	+610	長期借入金の増加：+596
負債合計	8,701	8,542	8,837	+294	
純資産の部					
純資産合計	9,523	9,796	10,119	+323	利益剰余金の増加：+363
負債純資産合計	18,224	18,338	18,856	+618	

連結財務の状況（要約キャッシュ・フロー計算書）

（単位：百万円）

	2019年12月期 第2四半期	2020年12月期 第2四半期	増減	主な内訳
営業活動によるC・F	1,583	548	△1,034	税金等調整前四半期純利益の増加：+455 売上債権の増減額の減少：△1,322
投資活動によるC・F	△19	△165	△145	有形固定資産の売却による収入の減少：△121
財務活動によるC・F	△846	△59	+786	長期借入れによる収入の増加：+1,300 長期借入金の返済による支出の増加：△616
現金及び現金同等物 に係る換算差額	△1	△6	△5	
現金及び現金同等物 の増減額(△は減少)	716	317	△399	
現金及び現金同等物 の期首残高	1,180	1,492	+311	
現金及び現金同等物 の期末残高	1,897	1,809	△87	

2020年1月後半から拡大した新型コロナウイルス感染症の世界的な流行によって対策用マスクの需要が一気に高まり、医療機関で使用されるN95マスクの不足が深刻化しました。そのような状況の中、当社グループは、日本の医療機関を守るため、以下の対応を行いました。

①緊急増産対応

- 医療機関にいち早くかつ必要数量を供給するため、使い捨て式防じんマスク「ハイラック350型」（米国NIOSH規格N95・厚生労働省国家検定規格DS2合格）の緊急増産体制をいち早く立ち上げ、生産から出荷に至る一連のオペレーション管理を強化しながら、その維持に努めています。



医療現場で使用される使い捨て式防じんマスク「ハイラック350型」
マスク内側にあるFFリップが高いフィット性能を実現

- 国内（中井テクノヤード）、海外（SIAMKOKEN LTD.：タイ国チョンブリ県）の製造拠点2か所にて、増員によるフル生産を継続しております



中井テクノヤード



SIAM KOKEN LTD.

- 2009年の新型インフルエンザ（A/H1N1）の国内流行以降、当社グループでは、緊急増産の体制づくり、パンデミック時の行動要領等を整備してきたことにより、短期間での増産態勢に入ることを可能としました
- 製品材料、部品は、ほぼ国産のため資材等の調達をコントロールし、原材料を要因とした製造への支障はありません

②タイ政府による輸出停止措置の解除交渉

- 2月よりフル生産体制に入り、全量を日本へ出荷
- 2月13日、タイ政府によりマスクの輸出許可が全面停止
- 現地にて情報収集、タイ政府との接触を重ね輸出許可取得に努めた結果、2月27日、輸出が許可され日本への出荷が再開
- 並行してタイ政府より現地生産のハイラック（N95）の一部買上げ要求が出され、その交渉にも当たりました。現在、SIAM KOKEN製造分の約半数をタイ政府へ供給

③生産設備の増設による供給量拡大

継続するN95マスクの不足、備蓄の推進及び政府からの増産要請に対応するため、国内の生産設備の増設を決定しました。

【増設の概要】

- 立地：当社群馬テクノヤード内（群馬県みどり市）
- 生産品目：使い捨て式防じんマスク「ハイラック」シリーズ
- 生産能力：月産60万枚
（現有能力の月産140万枚を200万枚まで引き上げる）



群馬テクノヤード

④緊急性の高い機関への分割出荷

- フィット性の高さなど、その高機能、高性能が評価され、保健所の8割、感染症指定医療機関の6割で採用されてきた「ハイラック350型」ですが、平時においては大量に使用されるものではありませんでした
- 今回の新型コロナウイルス感染症の拡大により、増産をはるかに上回る受注がありましたが、販売店と共に緊急度に応じた小口出荷で対応し、医療崩壊を防ぐべく全社で対応しました
- その結果、1月から6月の半年間で、全国の1,200か所を超える医療施設（保健所、感染症指定医療機関等）に「ハイラック350型」を供給することとなりました

事業トピックス（感染症対策用製品の開発）

医療従事者の感染リスクを最小化することを目指し、ウイルスサイズの粒子が99.999998%除去されたクリーンエアと、高度な整流技術によって作り出される究極の清浄空間により、医療従事者を守ることができるウイルス感染対策用フリーアクセススーパークリーンブース「Stand KOACH Mz」を開発し、発売いたしました。

本製品の開発は、第6回ものづくり日本大賞の内閣総理大臣賞を受賞した遺伝子・宇宙・半導体といった究極の清浄空間を必要とする最先端分野で数多く採用されているオープンクリーンシステム「KOACH」をベースとしております。

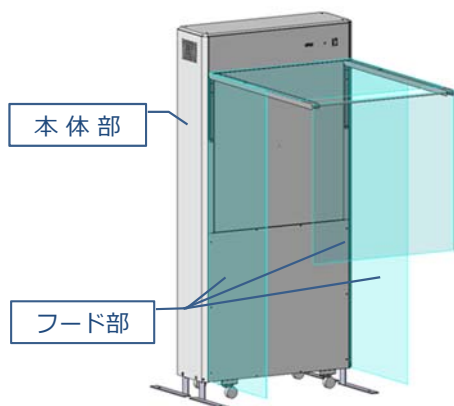
1. 開発の背景

医療従事者は、対面診療時どうしても患者と近い距離で接しなければならず、常に高い感染リスクにさらされています。コロナウイルス感染者には無症状な方も少なくないため、診療する全ての患者に対して感染リスクを想定した対応が必要です。

ISOクラス1※という極めて高い清浄度が求められる遺伝子・宇宙・半導体をはじめとした最先端の製造・研究現場で1000件を超す実績を有する「KOACH」をベースに生まれた「Stand KOACH Mz」は、その桁違いの清浄度を利用し、診療時の感染者の飛沫や浮遊ウイルス等から確実に医療従事者を守ることを目的に開発されました。

なお、本製品は、「KOACH」が世界13か国で取得している特許を活用して製品化しております。

※ISOクラス1：ISOで規定されたクリーンルームの清浄度でもっとも高いレベル。1m³中に0.1μmの粒子が10個以下の空間。



使用イメージ

2. 特長

①独自のフィルタ技術

当社独自の超高性能フィルタ「FERENA」と「ELE-PRE」により、ウイルスを含む0.15μmの粒子を99.999998%捕集することができます。新型コロナウイルスは0.3μmよりも小さいことが知られているので、一般的なHEPAフィルタ(0.3μmの粒子に対する捕集効率99.97%)と比べ、圧倒的に高い過性能を有しています。

②高度な整流技術

一般的には、フィルタでろ過した空気を送り込むだけでは、すぐに外部の汚染された空気と混ざり合ってしまう。高度に整流されたクリーンエアが同じ方向・風速で直進し、常に外部に向かって押し出されることで、内部へのウイルスの侵入を防ぎつつ、医療従事者の呼吸域を常に清浄な空気を守ります。

③オープン構造

出入りするスペースを開放した状態で内部を清浄に保つことができます。そのため、ウイルス汚染の可能性があるものに触れることなく出入りすることが可能です。密閉型の感染対策ブースのように、出入りの際に触れた手指、白衣等の消毒などの手間が省けます。また、内部にしながらPC等もストレスなく操作できます。

④同室内のスタッフの感染リスク低減

設置した部屋の空気をフィルタでろ過し、高クリーン化してフードから吹き出しているため、中にいる医療従事者を感染から守るだけでなく、設置している診療室自体もきれいにできる世界最高の空気清浄機としても機能します。

⑤どこでも、簡単に、すぐに使える

キャスター付きなので、どこでも楽に移動できます。折り畳み式のフード部は簡単に組み立て、収納が可能です。AC100Vの電源に繋いでスイッチを入れるだけで、1分ほどで使い始めることができます。

⑥静音設計

47dBと低騒音なので、聴診器も問題なく使える静かさです。

⑦熱や湿気がこもらない

オープン構造なので、内部の空気が外部へ素早く排出され、長時間使用しても温度上昇することなく、快適に業務を行えます。

当社グループは、創業以来、産業用マスク分野を中心に事業を展開し、病院・工場・自衛隊など幅広い分野で働く皆様の安全を陰ながら支えて参りました。今後も、**感染対策企業**として、人命を守る使命を負っていることを常に念頭に置き、製品の研究・開発を進め、社会へ供給して参ります。

2020年12月期連結業績・配当予想

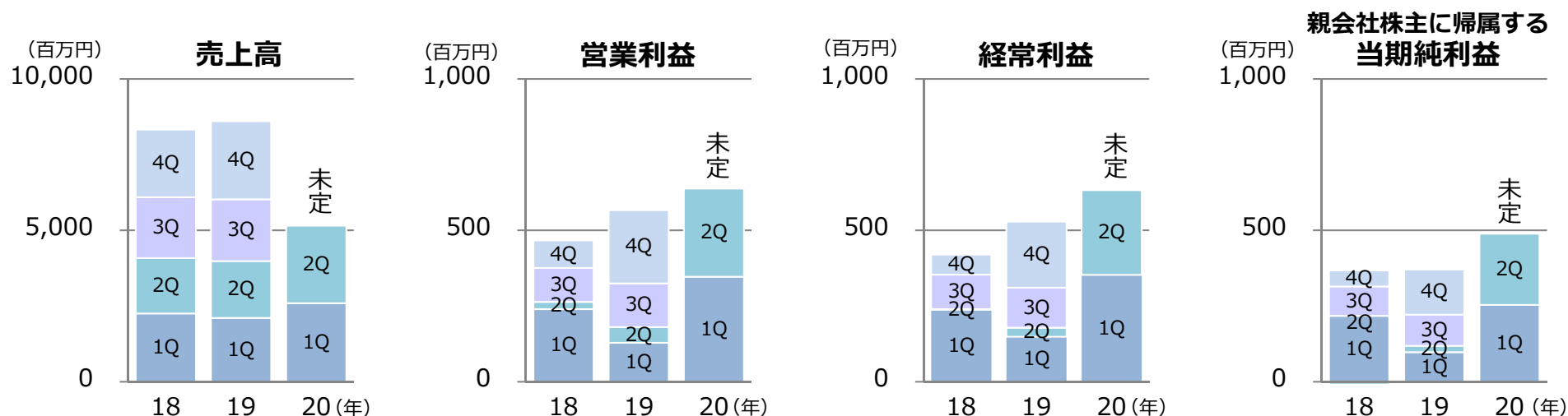
新型コロナウイルス感染症の拡大が第2四半期に入っても続いていることから、医療機関での対策用マスクの需要は高止まりしており、この傾向は第3四半期以降も続くと予想されます。その一方で、製造業で使用される産業用マスクについては、第2四半期まではマスク不足の懸念等から緊急的な需要が発生し、前年同四半期実績を上回りましたが、直近の足もとでは受注が前年対比減少傾向を示しております。また、新型コロナウイルス感染症の長期化によって経済活動全体が縮小することにより、その他事業へのマイナス面の影響も危惧されます。

このように、当社グループの業績に対してはプラス、マイナス両方の要因が混在する不確定要素が多く、業績予想の算定が困難であるため通期の連結業績予想及び期末配当予想につきましては、現時点では未定とさせていただきます。

今後、その予想数値が明確となった段階で速やかに開示いたします。

(単位：百万円)

	2018年12月期 実績	2019年12月期 実績	2020年12月期 予想 (8/3現在)
売上高	8,326	8,605	未 定
営業利益	466	567	
経常利益	420	528	
親会社株主に帰属に帰属する当期純利益	358	371	
1株当たり当期純利益	71円55銭	74円21銭	
1株当たり期末配当	25円00銭	25円00銭	



(注) この頁にある連結通期業績予想は、2020年12月期第2四半期決算短信発表日（2020年8月3日）現在、当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて記載しております。

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在（「2020年12月期第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）」の公表日／2020年8月3日）入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

本資料は、投資勧誘を目的にしたものではありません。実際に投資を行う際は、本資料の情報に全面的に依拠して投資判断を下すことはお控えいただき、投資に関するご決定は皆様自身のご判断で行うようお願いいたします。

本資料の掲載内容につきましては細心の注意を払っておりますが、掲載された情報やその誤りなど、本資料の利用によって生じた損害、障害等に関しましては、当社は事由の如何を問わず一切責任を負いませんので、ご了承ください。

本資料に関するお問い合わせ先

興研株式会社
広報・IR室

TEL 03-5276-1932
FAX 03-5276-6530
E-メール ir@koken-ltd.co.jp
ホームページ <https://www.koken-ltd.co.jp/>